

社会資本総合整備計画														事後評価書	
計画の名称	歩き・集えるくらしやすいまちづくり														
計画の期間	平成30年度～令和02年度（3年間）											重点配分対象の該当		○	
交付対象	朝日町														
計画の目標	東海道では、街道の面影を残す歴史的資源が見られ、複数の寺社が点在している。 ただし、5m程度の狭い道路が多く見られ、国道1号へ抜ける交通量が多く、制限速度を超えて走行している車両が多い。 町民アンケート調査においても、車でも、歩行者でも道路が利用しづらいといった回答が多く、車のスピードが抑えられ、安全に歩行できる空間づくりが求められている。 まちなみ整備ワークショップやまちなみ整備協議会においても、新旧の住民や、商工会議所、行政等との多様な連携が求められており、当該事業をまちづくりのきっかけとして、東海道の歴史的風情の活用、朝日町らしさの創出、新旧の住民や来訪者の交流、コミュニティを育むまちづくりや、生活者や歩行者にやさしいみちづくりの推進により『歩き・集えるくらしやすいまちづくり』を目指す。														
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）			82	A	76	B	6	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（H28当初）	（R2末）	（R4末）
1	観光ガイドボランティア等が観光客等に解説した年間回数が0人（H28）から400人（R4）に増加			
	観光ガイドボランティア等が観光客等に解説した年間回数を測定する	0人／年	200人／年	400人／年
2	平日の午前7時から午後7時までの間、東海道(朝日跨線橋から近鉄駅前交差点)を通過した車両数を1338台（H28）から1200台（R4）に減少			
	平日の午前7時から午後7時までの間、東海道を通過した車両数を測定する	1338台	1270台	1200台
3	朝日町資料館の年間入館者数を343人（H27）から800人（R4）に増加			
	朝日町資料館の年間入館者数を測定する。	343人／年	570人／年	800人／年

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
社会資本総合整備計画は令和2年度最終年度とし、令和3年度から都市構造再編集支援事業へ完全移行することから、最終目標値は令和4年度末での設定としています。												

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	朝日町	直接	朝日町	-	-	東海道地区都市再生整備計画事業	高質空間形成施設 A=62ha	朝日町						76	-	-	
												小計						76		
											合計						76			

B 関連社会資本整備事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市再生整備計画事業	B10-001	都市再生	一般	朝日町	直接	朝日町	-	-	町道3-3号線整備事業、サ クラ並木等緑化修景事業	スリット側溝、カラー舗装 L=334m、A=640㎡	朝日町						6		-	
		町道3-3号線整備事業及びサクラ並木等緑化修景事業において、都市再生整備計画の整備方針に基づき立地適正化計画区域外の一体的な整備により、目標指標の達成																		
												小計						6		
											合計						6			

事後評価	
事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
朝日町産業建設課にて事後評価を実施	令和7年9月
	公表の方法
	朝日町ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	令和3年度より都市構造再編集集中支援事業へ完全移行することから、現時点では各事業が未完了であり、定量的指標の発現には至っていない。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	ソフト事業として実施したワークショップの参加者を中心にまちづくり団体が組成され、自主的な活動が始まっている。
特記事項（今後の方針等）	
令和3年度より都市構造再編集集中支援事業へ完全移行し、令和4年度末の計画期間終了までに各指標達成を目指し進めていく。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	観光ガイドボランティア等の利用者数		
	最 終 目標値	400人 / 年	観光ガイドボランティアに向けた機運は高まったものの、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響もあり実現には至っていない
	最 終 実績値	0人 / 年	
2	朝日町資料館入館者数		
	最 終 目標値	1200台	資料館の改修工事未完了であり、かつ新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により開館に制限が生じたため
	最 終 実績値	246台	
3	東海道の車両の通過交通量		
	最 終 目標値	800人 / 年	東海道（町道3-3号線）の改修工事未完了であり、コストをかけて通過交通量を計測することは合理的ではないため計測していない
	最 終 実績値	0人 / 年	